

のきのき ハッピー キュウリ栽培



前田泰紀さん

令和2年12月に「キュウリ栽培」(まつやま書房)を出版し、野菜作りコンサルタントとして活躍する市内在住の前田泰紀さんにお話を伺いました。

大学で農学を学んだ後、埼玉県内の種子専門会社に就職をしたことをきっかけに市内に住みはじめました。その後、総合種苗会社に転職し、退職する昨年まで主にキュウリの育種と全国各地で一般野菜の栽培指導を行っていたとのこと。そのため今までの知識と経験を生かしてキュウリの本を出版したいと思ったそうです。

キュウリの栽培を学びはじめたのは、意外にも

県内の種子専門会社に就職したときで、キュウリの感想は「茎を触ったら、とげがあって痛い」だったそうです。その後、前田さんが育成したキュウリ品種の「南極1号」「トップグリーン」で2回の農林水産大臣賞を受賞されました。

今後の目標として、執筆している野菜作りの本を出版すること、引き続き農業に携わっていくことを語ってくれました。

前田さん、キュウリのスペシャリストとしてこれからも活躍してくださいね。



写真提供：本人



写真提供：本人

丘の上のさくらといちごフェア

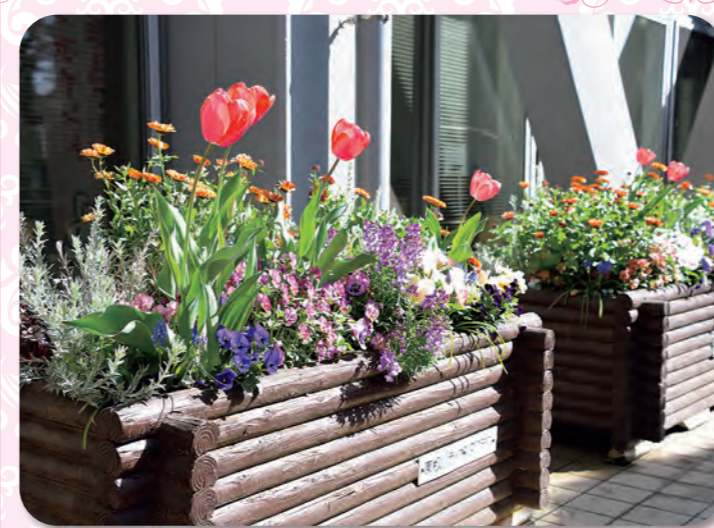


この広報紙にあなたが写っていましたら広報広聴課へご連絡ください。写真を上げます。

4月3日～11日のうち4日間、市農林公園で「丘の上のさくらといちごフェア」が行われました。丘の上のカフェHeuvel(フーヴェル)がオープンしてから、初めての桜シーズンを迎えた今年は、桜をめであり、期間限定メニューを食べたりする人の笑顔に出会うことができました。



人口と世帯(4月1日現在)		交通事故発生件数(3月中)		市内の空間放射線量測定結果	
人口: 90,297人	(-112)	発生件数: 329件*		市内34か所で空間放射線量を定期的に測定しています。	
男: 45,427人	(-119)	人身事故: 18件(死者: 1人、けが人: 26人)		4月の測定においても、基準値を下回っています。	
女: 44,870人	(+7)	物損事故: 311件		測定結果の詳細については、市HPに掲載しています。	
出生(3月中): 54人	(+16)	*東松山警察管内(東松山市・滑川町・川島町・吉見町)の件数			
死亡(3月中): 85人	(+7)	火災と救急件数(3月中)			
転入等(3月中): 682人	(+329)	火災件数: 1件			
転出等(3月中): 763人	(+452)	救急件数: 372件(交通: 33、急病: 221、その他: 118)			
世帯数: 41,209世帯	(+42)	搬送人員: 315人			
*()は前月比		環境政策課 ☎63-5006 ☎23-7700			



WITH FLOWERS ~暮らしに花を~

花いっぱい推進室誕生!
東松山市は、訪れる人を花いっぱい迎えるまちを目指し、4月から「花いっぱい推進室」を設置しました。フラワーサポーターと一緒に公共花壇をきれいにする活動を通じ、まちをたくさんのお花で彩っていきます。これからこのコーナーで皆さんの暮らしを彩る花の情報を発信していきます。

フラワーサポーター募集中

フラワーサポーターとは、花の好きな人、花に興味がある人が集まり、公共花壇等のアレンジメントや、花に関わるイベントの企画・運営をする等、花を通じて、世代を問わず人が集まるようなコミュニティの形成を目指すボランティアです。興味のある人は、花いっぱい推進室までご連絡ください。



市役所前の花壇の様子
11月ごろに植え込みをしてから、冬の寒さを越えて「ピオラ」「パンジー」がとてもきれいに咲き誇っていました。球根から植えた「チューリップ」も咲いてくれました。

問 地域支援課 花いっぱい推進室 ☎21-1435 ☎23-2236

埼玉県子ども動物自然公園 **動物ZOO鑑**

～園長おすすめ ポニー～

たなかりえこ 田中理恵子 園長

時代劇の馬

私が子どもの頃、時代劇は人気のテレビ番組でした。主人公が颯爽と馬にまたがり、風を切って走る姿は勇ましいですね。私も小学生の頃、感化され「おかあさん、アタシ馬飼いたい! 馬に乗って学校に通う～」などと困らせていました。しかし、この時代劇の馬には気になる点が1つ、それは体のサイズ。

テレビの中の馬はサラブレッドのようなスマートで大きい馬ですが、当時の日本の馬は本当はもっと小柄でした。それは日本の在来馬で、体が小さいだけでなく少しずんぐりむっくり。性格は穏やかで体が丈夫な馬です。当時の日本人も現代人より小柄だったといわれていますから、馬との比率ではしっくりいったのかもしれませんが。

在来馬は日本の固有種です。北海道から沖縄まで8種類いますが絶滅に瀕しているのをご存じですか? 明治以降にヨーロッパ系の馬が導入され、さらに戦後トラクターやトラックが、在来馬が担っていた農耕や運搬の仕事を奪ってしまったのが主な原因です。今では、流鏝馬などのお祭り、もしくはいくつかの動物園で見るといっていいかもしれません。

埼玉県子ども動物自然公園のポニーコーナーにはその1種、北海道産の白い道産子が3頭います。肩までの高さが147センチメートル以下をポニーといいますが、道産子もポニーです。海外産のポニーたちと毎日元気に馬場を走り回っています。昨年からの新型コロナウイルスの影響で、乗馬体験がなかなかスムーズに開催できていませんが、早く落ち着いてたくさんのお子もたちが日本の馬の背中に揺られてほしいな、と思います。「ねえ、馬飼いたい!」っていう子が増えちゃうかもしれませんけど。

